

# そよ風



大阪市立大学  
医学部附属病院

発行/大阪市立大学医学部附属病院  
〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号  
TEL 06-6645-2121  
http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/

2012年1月  
第16号



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

## 診療科紹介 乳腺・内分泌外科

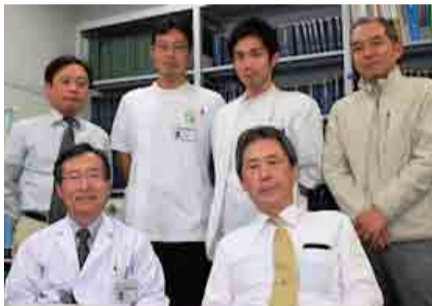
乳腺・内分泌外科は乳癌を中心とした乳腺疾患、甲状腺、副甲状腺腫瘍、および副腎腫瘍などの内分泌腫瘍を対象として臨床、研究、教育に当たっています。患者数は年々増加しており、年間約1600人の初診患者さんが受診され、手術件数はこの1年間で約350件と全国でもトップクラスになっています。

乳癌の手術は年間約170件で、乳房温存手術では整容性の高い手術を行うとともに、全摘術では形成外科と連携して乳房再建を積極的にすすめています。また、センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清の省略や低浸襲性治療も行っています。乳癌の内分泌・化学療法、放射線療法はエビデンスに基づく最適な治療内容を呈示し、インフォームドコンセントのもとに施行しています。外来化学療法は化学療法センターにて、がん化学療法認定看護師、専任薬剤師、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカーなどの多職種によるチーム医療として行っています。甲状腺・副甲状腺疾患の手術は年間約125例で、甲状腺癌の手術は約60例です。また進行症例や遠隔転移例にはアイソトープ治療を、未分化癌に対しては最新の放射線・化学療法を行っています。副腎腫瘍の手術は年間約25件で、ほとんどの症例を腹腔鏡下に行っており、良好なQOLがえられています。

今後わかりやすい説明に基づく納得のいく治療を信条に、最新の診断技術と治療を提供していきたいと考えています。



乳腺カンファレンス写真



乳腺グループ集合写真

### 理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します  
こころ豊かで信頼される医療人を育成します  
医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます

### (大学病院の) 基本方針

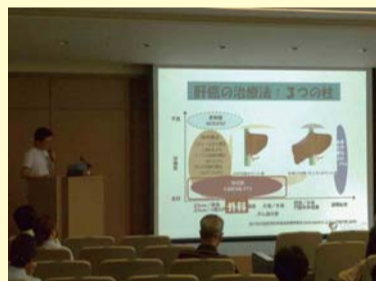
- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

## 肝臓病教室紹介

肝胆膵内科が主催する肝臓病教室は肝疾患に対する正しい知識の普及と患者さまのQOLを高めることを目的としています。

平成23年度は“ウイルス性肝炎”“C型肝炎”“肝臓がん”“脂肪肝”の4つのメインテーマで開催しました。毎回テーマに合わせて病気に関することや最新の治療法、食事を含む日常生活を送る上でのアドバイスを講義やクイズ形式を取り入れて、患者さまやご家族に楽しく有意義に学んでもらえるような場となることをめざしています。

回を重ねるごとに主催する側の



達成感も高まり、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、そして音楽療法士とチーム医療の集大成となっています。また、教室に参加できなかった方々に参考にしていただ

うとニュースレター『なめたら・あ肝臓!! ニュース』を発行し、16番(第3内科)外来、10東病棟に掲示しています。

これからもこのチーム力を発揮し、患者サービスに貢献していきたいと思っています。

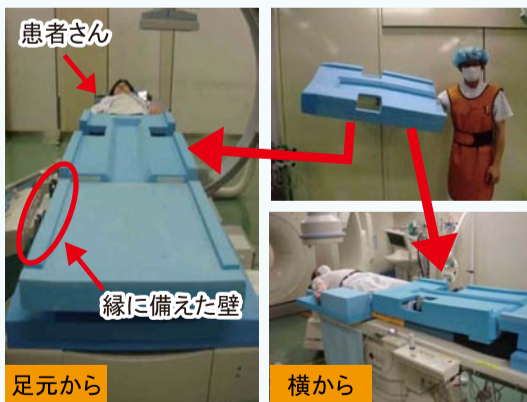
文責:10東病棟師長 桑鶴 由美子



### 医療安全だより

～安全・安心で、みんな笑顔の病院づくり～

#### 第10回 血管造影、安全のための工夫 (サービス向上も兼ねて)のご紹介 中央放射線部



(図1) 様々な方向から見た足台の外観

血管造影は、医師がカテーテルと呼ばれる細い管を血管内に挿入させます。そして造影剤をカテーテル先端から流して血管の写真を撮ります。血管の太い・細い、動脈瘤、ガンなどが見つかると、引き続きこのカテーテル越しで治療がされます。放射線技師は最良な支援のための写真作り、また

医師、患者さんが安全・快適にできる装置の環境作りに努力しています。今回、医師のカテーテル操作を安定させるために考案した補助具を紹介します(この補助具は第26回日本脳神経血管内治療学会学術大会でメディカル部門金賞を受賞しました)。

カテーテルは血管内を傷つけないよう精密に操作されなければなりません。この操作は一般的には患者さんの足の上(大腿部上での清潔な覆布越し)で直接にされます。しかしそれは足の凹凸によって操作のスムーズさ

として不便であり、患者さんにおいては常に大腿部直接に医師の腕の重みがかかり、快適性でも好ましく感じられませんでした。そこで操作する医師の掌、手首、肘をしっかり支える補助具が有用と考え、ホームセンターで市販されている材料を使用して患者さんの足元を覆わせる足台を考案、その作製にかかりました(図1)。

結果、この足台を使用した医師は、腕、肘を台上で支えとしてカテーテル操作がスムーズとなり、いっそうの高精度性となりました(図2)。これはカテーテル操作の安全性を確保したといえます。さらに縁に備えた丈夫な壁に、医師がもたれる事によって長時間操作での疲労軽減にもつながることがわかりました。これは医師の精密性高い操作について長時間保障したといえます。ところで足台に使用した材料は人の肌の温もりとほぼ同じであり、超軽量であるため苦痛感がまったくないと患者さんから感想をいただいています。足先を出すような工夫(図3)では、足の蒸れを防いで、窮屈さをなくすことにもなっています。

以上のような環境づくりで、医師・患者さんそれぞれでの負担を軽くして、スムーズな診断・治療につながりました。安全のためのアイデアでしたが、結果として患者さんへのサービス向上も兼ねそなえた補助具となりました。今後も放射線技師としての創意工夫にチャレンジして、患者さんに貢献できる技師を目指したいと考えています。



(図2) 足台上(清潔覆布をかけている)腕、肘を支えとしてカテーテル操作する医師



(図3) 足先を出す開口部

# 中央材料部キャラクター ハッチューガエルを誕生させて

花房陽子 公立大学法人 大阪市立大学医学部附属病院

中央材料部は、手術や処置で使用する材料や器材を扱っている部門です。普段は直接患者様と接する機会はありませんが、患者様の感染防止の重要な役割を担っています。病院内でも中央材料部の認知度は低かったため、中央材料部と部署の架け橋となるものが必要であると考へ、世の中のゆるきやらブームに合わせ、キャラクターを誕生させました。



「**ハッピーな中央材料部、物品を発注する、SPDラベルがきちんと返る、水掻きで請求漏れをすくう、患者様が元気になって家に帰る、日本看護協会のカエルプロジェクトに賛同**」ということからカエルをモチーフにし、名前をハッチューガエルとしました。中央材料部のユニフォームであるブルーの作業衣にキャップを着用したデザインで誕生しました。

ハッチューガエルの基本パターンから順にクリスマス、お正月へと四季の行事を取り入れたぬり絵は小児センターを中心に、入院されている患者様や家族、職員やその家族の方など、力作を送っていただき、中央材料部前の壁を利用して作品展を開催しています。又、ボランティアさんとの夏祭り「マーブルフェスタ」では、中央材料部の朝礼で行っている「簡単リラックス体操」の紹介やその体操を取り入れた踊りなどを披露して、ハッチューガエルとともに患者様とのふれあいの機会を作っています。

どうぞ、皆様診察の待ち時間や検査の合間に5階中央材料部の窓口を訪れてみてください。きっと目を楽しませてくれる楽しい作品に出会えると思います。



取り入れたぬり絵は小児センターを中心に、入院されている患者様や家族、職員やその家族の方など、力作を送っていただき、中央材料部前の壁を利用して作品展を開催しています。

又、ボランティアさんとの夏祭り「マーブルフェスタ」では、中央材料部の朝礼で行っている「簡単リラックス体操」の紹介やその体操を取り入れた踊りなどを披露して、ハッチューガエルとともに患者様とのふれあいの機会を作っています。

僕の名前は、**ハッチューガエル**  
中央材料部のキャラクターになりました。  
皆さん僕を覚えてください！  
かわいがってください！

## キャラクター誕生

平成21年8月7日中材まつりで



**プロフィール**  
◇生年月日：2009年8月7日  
◇血液型：AAO型(えいえいおー！)  
◇好物：バーコードラベル  
◇好きな言葉：回転

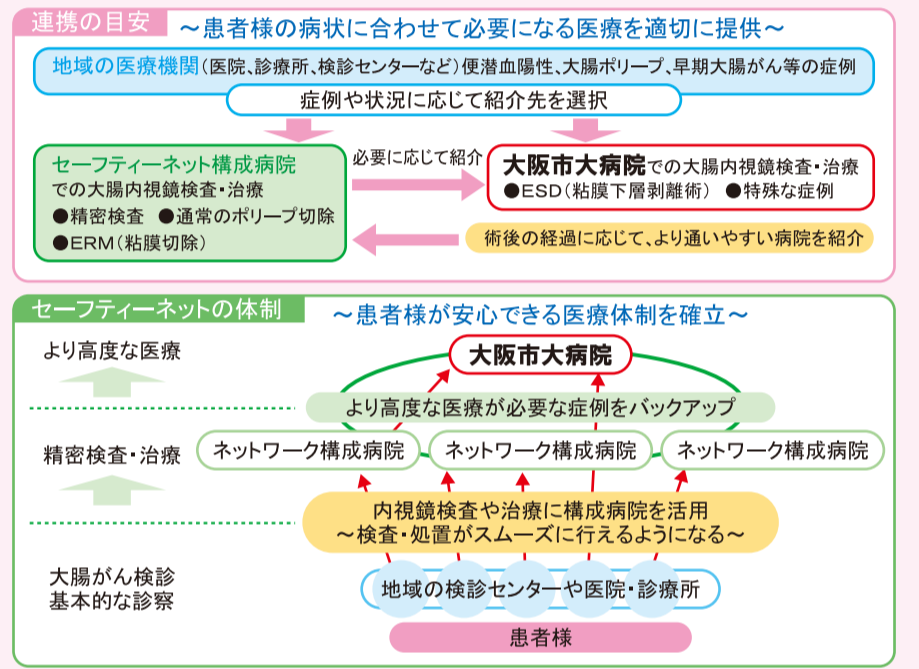
**ハッピーな中材、ラベルが上手くカエル、患者様が元気になって家に帰る、物品を発注する、請求漏れを水がきですくう、日本看護協会の「カエルプロジェクト」に賛同**という意味が込められています。

# 大阪大腸がん セーフティーネット：SNOCCO

大腸癌の有病率は近年増加し、死亡者数は50年で約10倍になったと言われています。大腸癌の生存率向上には早期発見が大切であるとされ、その検診は便潜血検査(通常、2回検査します)で行われています。しかし、便潜血検査の受診率の低さや、便潜血検査で異常を認めた方で大腸内視鏡による精密検査を受ける方が少ないことが大きな問題とされています。特に大腸内視鏡検査は病変の早期発見早期治療に有効で、日本の大腸内視鏡技術は世界一とも言われています。

我々、大阪市立大学消化器内科でも、こうした状況を踏まえ、専門的な診療と専門医の育成に取り組んでいます。しかし、大病院志向等による検査の過密が、本来、市大病院での診療が望ましい病気を有する患者様の支障となっている側面が近年強くなってきています。

当科と関連する信頼性の高い病院との連携で、通常の便潜血陽性患者様や大腸ポリープの患者様は利便性高く対応可能な地域の病院で、より専門性の高い検査や治療が必要な患者様には市大病院での診療を関連病院からの紹介で受けて頂きたいと思ひます。ネットワーク全体として、より多くの患者様に、必要に応じた適切な大腸内視鏡検査や治療を提供し、病状改善に寄与することを目的に、「大阪大腸がんセーフティーネット：Safety Net of Colon Cancer in Osaka, SNOCCO」を開設しました。市大病院のホームページを御参照頂き、病状にあわせた適切な病院での大腸内視鏡検査を受けて頂けますよう、患者様、地域医療機関の先生方に御願ひ申し上げます。



## 心肺蘇生講習会

# 「さわってみようAED」開催中

ライフサポートクラブ(LSC)は本学医学部生約60名からなるサークルです。自動的体外式除細動器(AED)の使用法を盛り込んだ心肺蘇生法を、後輩医学生、他学部生ならびに病院職員にインストラクションする活動をしています。

2009年から一般の方々にも心肺蘇生法を知っていただくために、院内AED講習会「さわってみようAED」を開催しています。本講習会は毎年2月中旬の平日夕刻に病院1階玄関ロビーで開催しています。受講者は年末から院内ポスターで公募しております。また受講者のみならず、通行中の方(見学者)にも心肺蘇生法を身近に感じていただけるよう、体験コーナー、展示コーナーならびに見学者も参加できるクイズコーナー



などの工夫を重ねています。過去3回の参加者総数は約300名で、「また参加したい」という声が多く寄せられ、高い評価を得ています。本講習会は、一般の方が心肺蘇生法を知るきっかけとなり、医師を目指す学生インストラクターにも貴重な体験であるうえ、院内各部署の横断的連携にも繋がる効果も期待できます。今年度第4回目を迎えますが、是非多くの方に楽しんで頂けるよう、部員一同準備中です。多くの皆様のご参加をお待ちしております！

文責：大阪市立大学医学部ライフサポートクラブ代表 柴田琴子

## 大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分  
電話 (06)6645-2121 (代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

診療科  
総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年内科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

